



奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

東京新都心ロータリークラブ【いつも元気だ！新都心】

Shintoshin Weekly

〒160-0023 新宿区西新宿2-7-2 ハイアットリージェンシー 東京11階

TEL : 03-3340-3555 FAX : 03-3340-3554

HP : <http://www.tokyo-shintoshin-rc.org> E-mail : shintoshin-rc@par.odn.ne.jp

会長 小川恵司 幹事 伊豆隆義 創立 : 1988年9月21日

「マーケティングと経済学で健康を守る」

公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学
教授 山本 精一郎 氏

がん予防やがん検診は、がんで苦しむ人を減らすために重要な方法である。しかしながら、これらについては十分に科学的根拠（エビデンス）があるにもかかわらず、必ずしも十分に実践されていない（エビデンス・プラクティスギャップ）。禁煙などのがん予防やがん検診受診などはすべて個人の行動変容を促すものであり、近年、行動変容を促すには従来の「教育的アプローチ」では十分でなく、「環境的アプローチ」への変化が必要とされてきた。なかでも、従来のモデルや理論に新たな行動科学的なアプローチを加味したアプローチの効果が期待されている。ここでは、そのなかでも、ソーシャルマーケティング及びナッジを利用したアプローチについて取り上げる。

ソーシャルマーケティングは、商業マーケティングに用いられてきた概念や技法をがん予防・がん検診といった公衆衛生的な行動変容を促すために用いるものである。ナッジは人々が行動を選択するときのくせ（惰性・バイアスなど）を理解して、強制することなく、選択の自由を確保した上で、人々が望ましい行動を選択するように導く行動経済学的なアプローチである。望ましい行動という点で、公衆衛生政策や保健政策との相性がいい手法といえる。これらの方法は、コロナ対策の中でも活用されてきた。今回は、がん検診の受診率向上プロジェクトを例に、ソーシャルマーケティングに加え、ナッジなどの行動経済学的方法を活用した行動変容へのアプローチについて紹介する。



<プロフィール>

名前：山本 精一郎（やまもと せいいちろう）

現職：公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学教授

国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所特任研究員

山本精一郎は、1996年に東京大学大学院にて博士号を習得し、同年4月より国立がんセンターに就職し、以降25年間、同センターにてがんに関する研究や実践を行ってきた。これまで、生物統計家としての専門を活かし、日本最大のがん多施設共同臨床試験グループである日本臨床腫瘍研究グループJCOGの統計担当として、標準治療確立に貢献してきたとともに、大規模コホート研究の事務局として、全国14万人規模の追跡研究を行い、がんリスクファクターの研究を行ってきた。最近においては、共同研究者の溝田友里とともに、世界最大の乳がん患者のコホート研究を構築し、がん患者のサバイバーシップ充実のための研究を行うとともに、エビデンスがあるのに実施されていない、がん予防やがん検診のエビデンスとプラクティスギャップを埋め、それらを全国に普及する研究を行っている。2019年から世界経済フォーラム第四次産業革命日本センターに出向後、国立がん研究センターに戻り、この10月より静岡社会健康医学大学院大学に教授として赴任し、これまでの経験を活かし、教育とともに、市区町村や県の健康問題に取り組んでいる。

2021年12月1日（水）第1494回例会

「マーケティングと経済学で健康を守る」
公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学
教授 山本 精一郎 氏
(紹介者 吉田 寿人 会員)

2021年12月8日（水）第1495回例会

「個の印象を管理する重要性」
有限会社キャストージCEO 印象戦略コンサルタント
乳原 佳代 氏
(紹介者 半場 慎一 会員)